INFORMATION

公開日：令和8年
3月14日（土）、22日（日）

投影開始時刻：1回目　午前10時30分～
2回目　午後　1時30分～
3回目　午後　3時00分

令和8年3月プラネタリウム春番組チラシ

観覧料：大人（高校生以上）　300円
中学生以下　無料

・入場券は投影開始30分前から発売します。
・投影開始後の入退場はできません。

定　員：各回100名（先着順）

＊公開日時、定員等は変更となる場合があります。
＊詳細は財団ウェブサイトhttps://www.regasu-shinjuku.or.jp/にてご確認ください。

プラネタリウム関連事業のご案内

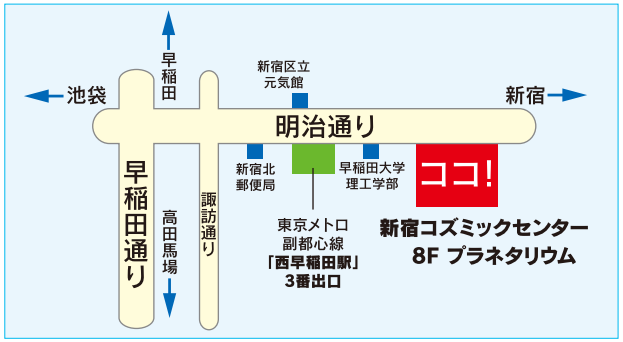
プラネタリウムでは、
星空コンサートやイベントなど、特別プログラムを実施しております。
詳しくは、上記ウェブサイトをご覧ください。

新宿コズミックセンター　プラネタリウム
新宿区大久保3-1-2　新宿コズミックセンター8F

●東京メトロ副都心線
「西早稲田駅」3番出口から
徒歩約3分

●JR/地下鉄東西線/西武新宿線
高田馬場駅から　徒歩約15分

●都バス
高田馬場駅から（高71）
新宿駅西口から（早77）
池袋駅・渋谷駅から（池86）
新宿コズミックセンター前
または早大理工前
下車徒歩約2分



【問合せ】公益財団法人 新宿未来創造財団　TEL 03-3232-7701

プラネタリウム春番組のご案内　新番組

星空散歩～春～

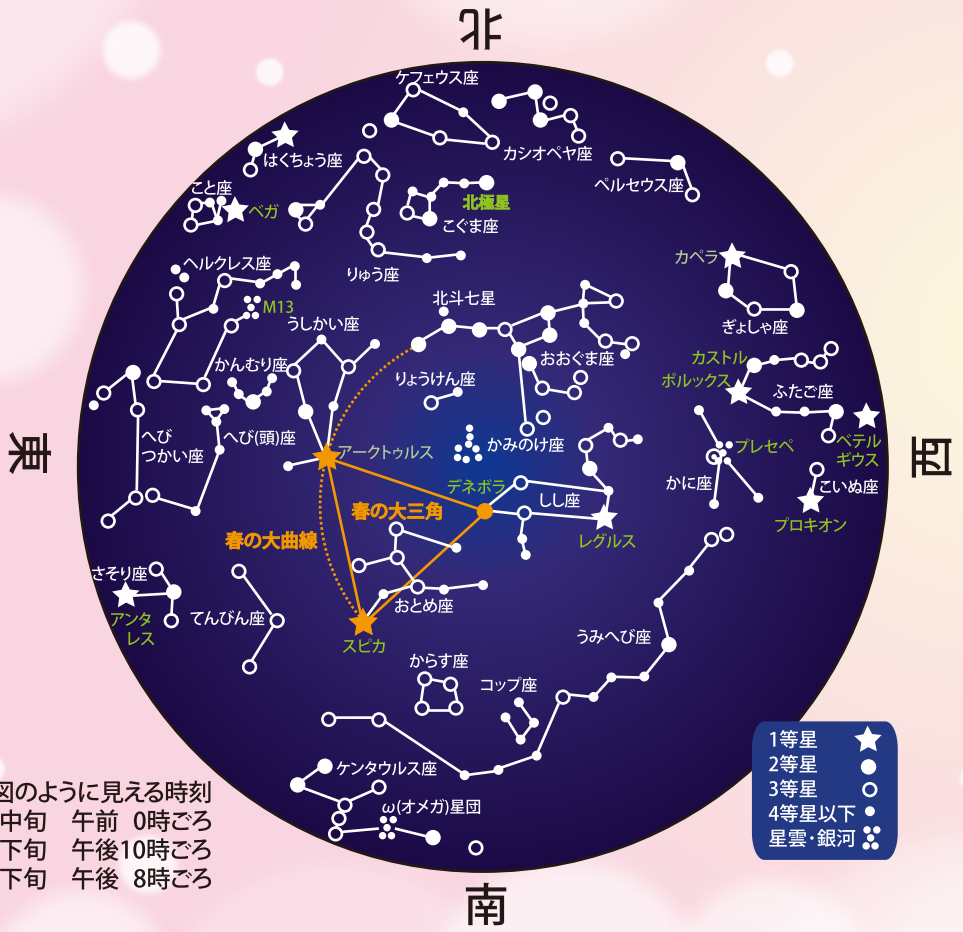
©山梨県立科学館

2026年3月
新宿コズミックセンター プラネタリウム

春の星空

　にぎやかな冬の星座が西の空にうつると、春の星座が優しく輝きはじめます。

　そして、しし座の2等星「デネボラ」、おとめ座の1等星「スピカ」、うしかい座の1等星「アークトゥルス」を結んでできる線が、「春の大三角」です。さらに、北の空に見える「北斗七星」のひしゃくの柄の先から線を伸ばし、アークトゥルスを通ってスピカまで繋げた線を「春の大曲線」と呼びます。



図のように見える時刻
3月中旬　午前　0時ごろ
4月下旬　午後10時ごろ
5月下旬　午後　8時ごろ

　「春の大曲線」の終点スピカの先に、台形に並ぶ４つの星でつくるからす座があります。そのすぐ下辺りからうねうねと右上に長く伸び、かに座まで達する長い星の並びがあります。それがうみへび座です。

うしかい座の物語

©五藤光学研究所

　はるか昔、ティターン神族がゼウス達との戦いに敗れ、アトラスはゼウスによって、世界の西の果てで天空を背負うという役目を負わされてしまいました。あるとき、そこに怪力ヘルクレスがやってきます。

　さあ、そこからアトラスとヘルクレスの知恵比べが始まります。

「海王星発見物語」 ―発見にまつわる大人の事情―

©山梨県立科学館

　1846年に発見された海王星は、科学の力が発見した惑星とも言われます。

　そこには、学者たちのたゆまぬ努力と様々な人間模様がありました。

　物語は18世紀の終わり頃から始まり、海王星発見、その後までの科学者たちの努力と人間模様を実話をもとに描きます。

　三頭身のペーパーマペットが映像になった演出で科学者たちの様子がコミカルに展開します。

天文一口メモ

望遠鏡が拡げる宇宙の姿

　望遠鏡の歴史は1608年、オランダの眼鏡職人から始まります。翌年、ガリレオが自ら望遠鏡を作成して天文観測を行うと、その後ケプラーによって改良が重ねられ、観測の精度が高まります。1668年、ニュートンが反射望遠鏡を発明すると次第に巨大化され、1781年に天王星を発見したハーシェルの望遠鏡の口径は、最大で122㎝にもなりました。

　近代に入ると技術革新により反射率が飛躍的に高まってより巨大化、さらに光学式から赤外線望遠鏡・電波望遠鏡へと進化すると、宇宙の姿は急速に解明されるようになりました。2003年、日本が誇るハワイのすばる望遠鏡は、128億光年かなたの銀河の姿を捉えました。そして望遠鏡は宇宙へ。2021年に打ち上げられたジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡は、宇宙誕生から間もない銀河団の姿まで可視化するに至っています。